

見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち

DECEMBER 2016 vol.32

りゅうねんじ ◆龍拈寺

所在地：豊橋市新吉町

交通：豊橋鉄道市内線「札木」停 東約600m

昭和19（1944）年に発生した昭和東南海地震では、軍事工場として飛行機の生産を担っていた半田市の中島飛行機の工場で、工場の建物が崩壊したことにより、たくさんの犠牲者が出ました。犠牲者の多くは学徒動員で各地から集められていた児童・生徒らで、各校の死者数は表に示すとおりです。

学校名	死者数
半田高等女学校	29
豊橋高等女学校	23
京都三中	13
福井商業学校	7
半田国民学校	6
半田商（工）業学校	4
半田中学校	3
愛知実修高等女学校	3
成岩国民学校	3
片能国民学校	3
亀崎国民学校	2
乙川国民学校	1

慰霊碑に刻まれた東南海地震の学徒の犠牲者の数

半田市には、昭和東南海地震の際に中島飛行機の工場で命を落とした方を慰霊する碑として、市内から動員された学徒を慰霊した「追憶之碑」、動員されたすべての学徒を慰霊した「殉難学徒之碑」（以上、2014.12月号）、地震の後、中島飛行機が慰霊のために設置した「震災殉難者之塔」を引き継いだ「殉職者諸精霊之碑」（2015.9月号）など、数多くの碑が残されています。

表を見ると、県内各地、さらには県外からも学徒の動員があり、中島飛行機で軍用機の生産に携わる中、昭和東南海地震に遭い、犠牲になった方々があることがわかります。豊橋高等女学校（現・豊橋東高校）や愛知実修高等女学校（現・豊橋中央高校）も、中島飛行機に動員学徒として女子生徒を送っていた学校で、地震により、豊橋高等女学校の生徒が23名、愛知実修高等女学校の生徒が4名、命を落としています。

豊橋市の龍拈寺には、この2校の犠牲者を慰霊する観音

像があります。この観音像は昭和32年に建立されたもので、「豊橋高等女学校動員学徒殉難之碑」と題され、台座正面には「惟時昭和十九年十二月七日下午三河地方二大地震起ル時二太平洋戦争苛烈トナリ学徒動員令ニ応ジテ豊橋市立高等女学校及愛知実修高等女学校三年生学徒八中島航空機半田製作所ニ挺身報国ノ至誠ヲ盡ス偶此ノ震禍ニ遭イ二十六柱ノ英霊遂ニ護国ノ礎石トナル俟テ遺族等有志学徒観音ノ塔ヲ建テ以テ霊位ノ菩提ヲ荘厳ス」と、学徒動員令により中島飛行機に動員されていた三年生の学徒が犠牲になったこと（碑文中では26名）、これを慰霊するために遺族がこの観音像を建立したこと、が記されており、裏面には『殉難学徒』として、27名の名前が刻まれています。

豊橋東高校（旧豊橋高等女学校）にも現在、学徒動員中に犠牲になった方々の名前を記した記念碑が建立されており、昭和東南海地震による豊橋高等女学校の犠牲者23名の名前が、観音像と同様に記されています。（半田市の殉難学徒之碑にも、同様に名前が記されています。）

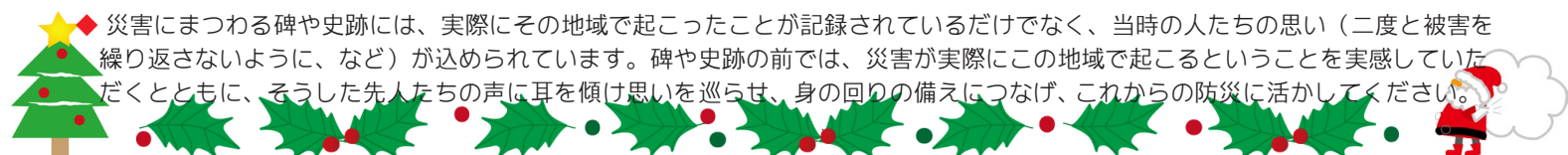
昭和東南海地震では、学徒動員令により動員されていた生徒が数多く命を落としており、このことが深い悲しみを呼んで、各地で慰霊碑が建立されています。命を落とした方々のご冥福を祈りながら、地震で命を失う悲しみを繰り返さないための行動につなげましょう。



龍拈寺の観音像（左）豊橋東高校の記念碑（右）



◆災害にまつわる碑や史跡には、実際にその地域で起こったことが記録されているだけでなく、当時の人たちの思い（二度と被害を繰り返さないように、など）が込められています。碑や史跡の前では、災害が実際にこの地域で起こるということを実感していただくとともに、そうした先人たちの声に耳を傾け思いを巡らせ、身の回りの備えにつなげ、これからの防災に活かしてください。



◆ 龍拈寺の周辺には…

● 神宮寺（願かけ地蔵）

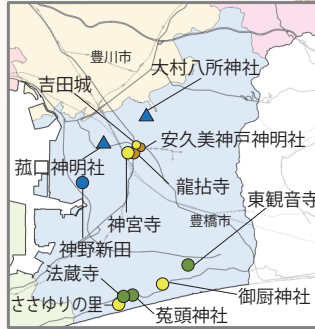
所在地：豊橋市魚町神宮寺

交通：豊橋鉄道市内線「札木」停 南約 150m

嘉永 7(1854) 年安政東海地震の際、神宮寺の地蔵菩薩が幼女の身代わりとなって命を救ったという話から、信仰



を集めるようになりました。このため、願かけ地蔵ともよばれています。



● 安久美神戸神明社

所在地：豊橋市八町通

交通：豊橋鉄道市内線「豊橋公園前」停 すぐ

昭和 19 年昭和東南海地震の様子として、「社務所は東へ傾き、戸障子も所々外れ、壁土が大分落下」していたこと、「石燈籠は大半倒れて」いたこと、しかし、本殿や社殿には損傷がなかったことが、安久美神戸神明社千年誌に記されています。



◆ 詳細な地図は『歴史地震記録に学ぶ 防災・減災サイト』（<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>）をご覧ください。

★ 真田祭

豊橋鉄道渥美線の杉山駅近くにある真田神社で、毎年 12 月第 2 日曜日に真田祭が催されます（平成 28 年は 12 月 11 日）。

真田祭は、喘息や喉の病気の治療にご利益があるとされる祭で、江戸時代末期、当地に住む幸助という男の夢に真田幸村が現れ、「汝、日ごろ喘息の持病にて苦しむ状、不憫なれば、汝、正直によりこの業病より助け救いとらせむ」「天の水と地の水とが合流し、真南より真北に流れ、途中二つ以上の橋を潜り海に注ぐ川求め、12 月 12 日にその川へ大根に幸村様行きと書き、且つ己が姓名をも書き添えて流すべし、されば喘息の悪病もたちどころに快癒すると



豊橋観光コンベンション協会 HP より

ころ疑いなし」と告げ、男がこのお告げどおりに川に大根を流すと喘息が完治した、という伝説がその起源と言われています。

参加者は大根の絵が描かれた札に名前と生年月日を記入し、神社で祈禱を受け、近くの弁天川（現在では公園の水辺の一角）に札を流します。

12 月のあいちの花

平成 28 年 12 月のあいちの花は、ポインセチア



です。（平成 26 年 12 月に引き続き、再びの登場です。）

ポインセチアはクリスマスに使われる代表的な鉢物で、色づいた花びらに見える部分は苞葉（葉っぱ）です。短日植物で、日照時間が 12 時間以下にならないと花が咲かず、葉がきれいに色づかないため、9 月頃から段ボールなどをかぶせて日照時間を調節します。乾燥するとすぐに枯れて葉が落ちるので、暖房などにも注意が必要です。

● ブレイクタイム ●

♪ おでんしゃ

冬の豊橋では、街中を走る市電（豊橋鉄道市内線）で、揺れる車窓から豊橋の街並みを眺めながら、おでんと生ビールを堪能できる「おでんしゃ」が運行されます。



豊橋鉄道株式会社 HP より

豊橋駅前電停から出発し、終点の運動公園電停で折り返し、

豊橋駅前電停に戻る約 1 時間 20 分、おつまみ弁当や豊橋名産ヤマサちくわ特製おでんが振る舞われ、生ビールが飲み放題です。全便予約制で、夜の便だけでなく昼の便もあり、冬の豊橋の風物詩となりつつあります。

◆ この地域の災害に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などの情報がありましたら、gensaisan2014@gmail.com まで情報をお寄せください。

◆ 県内の歴史地震記録をホームページで紹介しています。各地の碑や史跡等にご興味をお持ちいただけましたら、『歴史地震記録に学ぶ 防災・減災サイト』（<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>）をぜひご覧ください。

（発行：減災の会・名古屋大学減災連携研究センター 平成 28 年 12 月）

